

短歌・俳句に親しもう (一) ①

名前 (

◆84ページの短歌・俳句を声に出して読んでみよう。

五・七・五 や 五・七・五・七・七の句の切れ目に赤えんぴつで線を引きましょう。

(例) 岩走る垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりけるかも (志貴 皇子)

① 岩走る垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりけるかも

(志貴 皇子)

② 君がため春の野に出でて若菜摘む我が衣手に雪はふりつつ

(光孝天皇)

③ 見渡せば柳桜をこきまぜて都ぞ春の錦なりける

(素性法師)

④ 名月や池をめぐりて夜もすがら

(松尾 芭蕉)

⑤ 夏河を越すうれしさよ手に草履

(与謝 蕪村)

⑥ 雀の子そこのけそこのけ御馬が通る

(小林 一茶)

